



会社概要

日本通運株式会社

<https://www.nittsu.co.jp/>

業種：ロジスティクス

従業員数：

32,094名（2017年5月1日現在）

資本金：70,175百万円

（2017年5月1日現在）

所在地：〒105-8322 東京都港区東新橋
1-9-3

事業内容：

日本通運は1937年に設立された物流企業であり、総合物流国内最大手。日本をはじめ米州、欧州、東アジア、南アジア・オセアニアの5極体制でビジネスを展開しており、陸・海・空といった多彩な輸送モードを駆使した、物流のワンストップソリューションを提供している。また物流を核としたサプライチェーンソリューションの提供も行っており、そのために必要な倉庫も世界規模で展開している。

導入製品

導入時期：2016年4月

導入製品：

Tableau Desktop ライセンス数：19

主な利用環境：倉庫管理システム
Microsoft Excel

導入に要した期間：約1か月

倉庫の作業効率に関するレポート作成にTableauを活用 以前は毎週6時間かかっていた作業時間が30分に短縮

Before 導入前の課題

倉庫の作業効率に関するレポートを週次で顧客に提出していたが、そのための作業負担が大きく、毎週6時間が費やされていた。

After 導入後の効果

データ集計プロセスに Tableau を組み込むことで、レポート作成の作業時間を30分に短縮できた。また計算ミスもゼロになり、担当者の事務的な負担も軽減された。

導入の背景

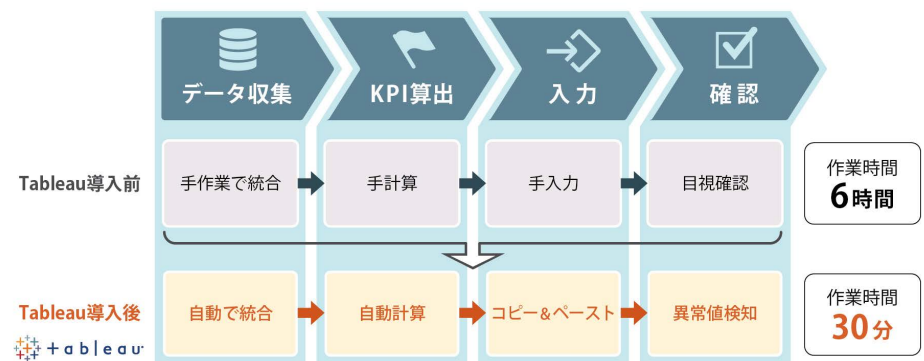
日本通運株式会社は、1937年に設立されたグローバルロジスティクス企業です。日本をはじめ米州、欧州、東アジア、南アジア・オセアニアの5極体制でビジネスを展開しており、陸・海・空を網羅した多彩な輸送モードを駆使し、物流のワンストップソリューションを提供しています。また物流を核としたサプライチェーンソリューションの提供も行っており、そのために必要な倉庫も世界規模で展開、その数は約1,500拠点に上ります。

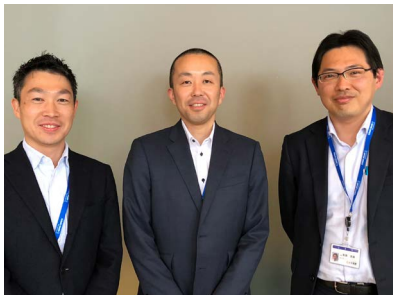
「これらの倉庫における作業効率を分析するため、2016年4月に Tableau を導入しました」と語るのは、海外事業本部 グローバルロジスティクスソリューション部 係長の金子 俊哉氏。倉庫内の平面図上で棚ごとの荷物出し入れ頻度を可視化し、どの棚とどの棚の荷物が一緒に出荷されることが多いのかといったバスケット分析や、出荷先のトレンド、時系列で見た時の作業負荷の増減、作業員個人別の生産性など、さまざまな観点での分析が行われているといいます。その後、IT部門でも Tableau を導入、現時点では国内外の日通グループで、19ライセンスが利用されています。

2017年10月には複数部門が共同し、顧客向けレポート制作を Tableau で効率化するというプロジェクトにも着手。大きな成果を上げています。

「2017年秋に、7か国・8拠点の倉庫をご利用の大手のお客様から、『各倉庫での作業効率のデータが欲しい』と言われたことが、このプロジェクトのきっかけになりました」と振り返るのは、営業開発部で商流・アパレル担当の課長を務める坪内 一憲氏。当初は坪内氏が手作業で集計を行い、顧客が決めた Excel のフォーマットにまとめ、週次でレポートを提出していましたが、そのデータ量は65万レコードに上り、各レコードのカラム数も多いため、集計の作業負担が大きかったといいます。「作業方法を工夫することで時間短縮を進めてきましたが、6時間以下に縮めることはできませんでした。毎週これだけの時間をレポート作成に費やすのは問題があると考え、解決策をロジスティクス開発部に相談することにしたのです」。

Tableau導入によるレポート作成プロセスの変化





お客様プロフィール

(中央)
海外事業本部
グローバルロジスティクスソリューション部
係長 金子 俊哉 様

(右)
ロジスティクス開発部
係長
新藤 克典 様

(左)
営業開発部
課長 (商流・アパレル)
坪内 一憲 様

Tableauについての質問

Q1. Tableau で感動したことは？

「以前は Access や Excel で分析を行っていましたが、これらではできない分析が簡単にできてしまうことです。例えばボリュームデータを倉庫レイアウトにマッピングしたり、時系列分析の期間切り替えを自在に行うといったことが可能です。また処理スピードが圧倒的に速いことにも感動しました」

Q2. Tableau 導入後の変化は？

「仕事のスピードが明らかに速くなりました。私自身の体感では3倍速になっています。以前は分析に費やされる労力で疲れてしまい、その先の仕事にまで手が回りませんでした。いまでは改善策の立案やその実行といった、より大切な仕事にエネルギーを費やせるようになりました」

Q3. Tableau でしたいことは？

「現在は社内での分析に Tableau を使っていますが、今後はお客様にも分析内容を提供したいと考えています。実際のデータをビジュアライズしてお見せすることで、お客様がそれまで気づけなかったことにも気づけるようになり、さらに価値のあるサービスへとつなげていくことが可能になるはず」

この相談を受けたロジスティクス開発部 係長の新藤 克典氏は、集計を効率化するためのツールの比較検討を実施。その結果選ばれたのが、すでに金子氏が利用していた Tableau だったのです。

Tableau 導入・運用環境

レポート作成のプロセスを改革するため、新藤氏が推進役となったプロジェクトがスタート。ここに金子氏と坪内氏も参画し、3者共同での取り組みが進められていきます。まずは Tableau の活用方法を明確化し、その後約1か月にわたって従来の手作業と Tableau でのレポート作成の並行運用を実施。この間に各倉庫でのデータ入力ルールや、それらを収集する仕組みも創り上げていきます。そして2018年2月に、Tableau によるレポート作成へと完全にシフトしたのです。

各倉庫で入力されたデータは、まず坪内氏の部署へと集められ、自動的に Excel シートへとまとめられます。次にこのシートが金子氏に送られ、Tableau による集計・分析が行われた上で、顧客が決めたフォーマットの Excel シートでのレポートが作成されます。その内容を坪内氏がチェックし、顧客に渡されるようになっていきます。

Tableau 選定の理由

このプロジェクトで Tableau を選択した理由について、新藤氏は「社内ですでに実績があることと、他のツールに比べて簡単に使える点を評価しました」と説明します。また将来は各倉庫の生産性を可視化し、その内容を倉庫にフィードバックすることも考えていたため、ビジュアライズが素早くできる点も魅力的だったといえます。

その一方で、それ以前から Tableau を活用していた金子氏は「柔軟なフィルター設定や、地図に対するボリュームデータのマッピング、バブルチャートの作成など、従来は対応が難しかったことも簡単にできてしまうので、これはすごいツールだと感じました」と語ります。また時系列の分析で分析対象期間を自在に切り替えられることや、使用言語を変更したときに単位などの表示が自動的に変わる点も、使いやすさにつながっているといえます。「処理スピードも圧倒的に速く、これを使わない手はないと考えました」。

Tableau 導入効果

Tableau の導入は、以下のような効果をもたらしています。

レポート作成の作業時間が 1/12 に短縮

レポート作成のプロセスに Tableau を組み込んだことで、以前は手作業で6時間かかっていた作業時間が、現在ではわずか30分に短縮されています。「Tableau 活用前はあれだけ工夫しても短縮できなかった作業時間が、一気に短縮されてしまいました。おかげで残業時間も減っています」(坪内氏)。

計算ミスがゼロになり精神的負担も軽減

Excel での集計ではどうしてもなくすことができなかった計算ミスも、現在ではゼロになっています。その結果レポート内容のチェックも容易になり、精神的なプレッシャーも減っているといえます。

今後の展開について

「今後は各倉庫の作業効率をビジュアライズし、倉庫レイアウトや人員配置の最適化を行うことで、現場力強化につなげていきたいと考えています」と坪内氏。また新藤氏も「今回 Tableau を使ってみただけで、倉庫改善の可能性はまだ大きいことがわかりました」と語ります。「これをうまく使うことで、会社全体の競争力強化にもつながるはず。ぜひ他の部門にも紹介していきたいです」。

無料トライアル版をダウンロードして、ぜひ Tableau をお試しください。

<http://www.tableau.com/ja-jp/trial>

Tableau Japan 株式会社 (Email: japan@tableau.com)